

**親愛なるムスリムの皆様！**

アッラーに対する責任を認識しているムスリムの特質の一つが、施しです。施しは、アッラーのご満悦を得るため、人が自らの財産を費やすこと、必要としている人々に物質的・金銭的な援助を行なうことを意味します。この観点から、施しというと義務であるザカートや、自由意志に従って行なわれる各種のよい善行が思い起こされます。

私達皆が知っているように、人が所有している全てのものの唯一の、そして真の持ち主はアッラーです。だから人が信託として所有している財産を、真の持ち主である創造主が示されることに用いることは、しもべである私たちの務めです。

クルアーンのアヤでは、アッラーを誠実に信じる信者達の特質を挙げる際、信仰と礼拝に続いて施しについて言及していることは、この必要性によるものです。施しが行なわれる際には、見せかけの行為から遠ざかり、ひたすらアッラーのご満悦のためになされること、施しを受ける人の誇りを傷つけないこと、なされた施しが人間の尊厳にふさわしい内容と価値を持っていること、特に施しを受ける困窮している人々の求めに最も即したものであることに細心の注意が払われるべきです。

**親愛なるムスリムの皆様！**

貧困者の支援、学校、図書館、モスク、道路、橋、泉などの建設、老人や身寄りのない人々のための介護施設の建設、もちろんのこと、災害にあった人々のためになされるあらゆる援助、さらには動物や環境、自然を保護

し守るための出費なども、アッラーの道における施しと見なされています。またハディースで述べられているように、家族のために費したお金もまた、施しとされ、サダカの中でも最も尊いものとされています。クルアーンでは一般的によいことの報奨はさらに10倍にもされるとありますが、アッラーの道における施しの報奨は700倍もしくはそれ以上であるとされています。これも施しにおける重要性を示しているものです。

施しには精神的、社会的にも大きな効果があることは疑いの余地もありません。この効果の最たるものとして、施しを行なう人が見返りを求めず人の助けになったことで得る精神的な安定があります。また一方で、施しのおかげで人はうぬぼれ、自己中心的考え、けちといった私達の教えでよくないとされていることから救われます。

**親愛なるムスリムの皆様！**

忘れてはいけないことは、社会として貧困層と富裕層をつなぐ敬意と愛情が、敵意や憎しみではなく兄弟愛が求められ、目標とされるべきものだということです。この望みや希望を実現させるための最大の手段の一つが、施しなのです。

本日のホトバを雌牛章第262節によって締めくくりたいと思います。「アッラーの道のために、自分の財産を施し、その後かれらの施した相手に負担や侮辱の念を起させず、また損わない者、これらの者に対する報奨は、主の御許にある。かれらには、恐れもなく憂いもないであろう。」

